



シラバス参照

タイトル「2010シラバス」、フォルダ「2010シラバス-学部」
シラバスの詳細は以下となります。



科目コード：科目名	11220106：スポーツ実践		
担当教員	土田 了輔 榊原 潔 清水 富弘		
標準履修年次	1年	コマ	A・Bグループ
講義室	体育館	開講学期	前期
曜日・時限	水2	単位区分	履修の手引を参照のこと
授業方法	実験・実習・実技	単位数	1.0
備考			
履修対象			
授業の到達目標・テーマ	いま学校現場では、子どもらしさの回復を求めて教師には「体験・実践を重視した授業プログラムの開発」が求められている。多種目スポーツにおける体験・実践によって得られる経験知を通して、それぞれのスポーツ活動の理解を深めるとともに、仲間との交渉力・コミュニケーション、人間関係の調節力、技能や知識の差によるそれぞれの立場の理解と配慮といった能力の開発を目指す。		
授業の概要	サッカー、バスケットボール、水泳といった、学校現場で取り上げられることが多く、また、生涯スポーツへと発展する可能性をもつ3つの活動に対する理解を深める。		
履修条件・注意事項(授業時間外の課題等)	各種目に応じた準備(服装・靴・水着・水泳帽など)を必要とする。 1回目の授業はサッカー、バスケットボールともに大体育館にてガイダンスを行う。運動は行わないので着替えの必要はないが、床が冷たいので上履きがあるとよい。筆記用具持参のこと。大学院生の履修希望者は、第1回目のガイダンス(AB,CDどちらか都合のよい方)に出席してください。 2回目以降は、原則的にバスケ=体育館、サッカー=サッカー場、水泳=プールで実施する(水泳は前期の後半から開講)。		
授業計画・内容(授業回数毎)	下記の内容はバスケットボールを最初に履修するグループの例。半分はサッカーから履修します。下記の授業回数は1回目のガイダンスを除く。 回 内容 1 バスケットボール風ゲーム1. ガイダンス、グループ分け、ボール遊び、ゲーム 2 バスケットボール風ゲーム2. ボール遊び、個人技能、試しのゲーム(何人で守れるか) 3 バスケットボール風ゲーム3. ボール遊び、個人技能、集団内ゲーム(分業の試行錯誤) 4 バスケットボール風ゲーム4. ボール遊び、個人技能、集団間ゲーム 5 バスケットボール風ゲーム5. ゲーム実践 6 サッカー1. ガイダンス、グループ分け、はじめのゲーム 7 サッカー2. ボールフィーリング、サッカーまたはフットサル 8 サッカー3. コミュニケーション、サッカーまたはフットサル 9 サッカー4. ボールキープ、チーム内ゲーム 10 サッカー5. まとめのゲーム 11 水泳1. 泳力テスト、グループ分け 12 水泳2. 水慣れ、水泳技能(泳フォーム) 13 水泳3. 水慣れ、水泳技能(泳距離) 14 水泳4. 水慣れ、水泳技能(泳スピード)、泳力の確認テスト。		
試験	各種目ごとに課題がある。3種目の総合試験等は実施しない。		
成績評価の方法	授業全体の成績は、出席を重視し、3種目の総合によって評価する。 バスケットボール風ゲームでは、突破型ゲームのゲーム内での役割に応じた戦術的気づきの広がりについて評価する。 部活等での欠席は各種目総授業回数の1/3を越えない範囲で許容する。		
教科書・参考書	担当教員から指定される。		



シラバス参照

タイトル「2010シラバス」、フォルダ「2010シラバス-学部」

シラバスの詳細は以下となります。



科目コード：科目名	11240210：韓国文化論		
担当教員	釜田 聡		
標準履修年次	1年	コマ	00
講義室	講302	開講学期	前期
曜日・時限	月3	単位区分	履修の手引を参照のこと
授業方法	演習	単位数	
備考			
履修対象			
授業の到達目標・テーマ	<ol style="list-style-type: none"> 1 韓国の現状について、多面的・多角的な視座から学ぶことができる。 2 韓国の現状を日韓の過去の交流史との関係からとらえ直すことができる。 3 韓国の現状や日韓の関係を踏まえ、今後の教育への示唆を導き出すことができる。 		
授業の概要	<p>韓国の現在事情について次の視点から考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・韓流ブーム ・韓国の生活習慣や価値観「先生の日」って何？ 祖父母の誕生日はみんなで祝い ・韓国の衣食住 ・韓国の教育 ・韓国の若者事情 ・日本と韓国の歴史の問題 ・日本の中の韓国 ・持続可能な開発のための教育 		
履修条件・注意事項(授業時間外の課題等)	<p>次のような学生が積極的に履修することが望まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○韓国の歴史や文化、映画・テレビ、衣食住等や日本と韓国との交流の在り方に興味関心、問題意識をもっている。 ○将来、韓国に訪問したり、韓国の若者たちと交流したいと考えている。 		
授業計画・内容(授業回数毎)	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 教員の自己紹介、授業の概要、韓国の魅力、評価などについて 2 韓国は魅力満載！ PISA学力「読解力」世界1、友情に熱い国民性！ 韓国を理解することで日本が見える。 自分の地域にある「韓国」 3 韓国の若者から学ぶ「韓国文化」Ⅰ 若者たちの価値観は？ 4 韓国の若者から学ぶ「韓国文化」Ⅱ 生まれてから大学まで 5 今、韓国はⅠ 主に政治や教育、外交、市民意識について 6 今、韓国はⅡ 主に政治や教育、外交、市民意識について 7 日本の中の韓国 各地に残る韓国との交流の足跡 多文化共生時代における日本の課題 8 日本の教科書の中の「韓国」Ⅰ 小学校の教科書に書かれている韓国文化 9 日本の教科書の中の「韓国」Ⅱ 中学校の教科書の中の韓国文化 10-14 韓国の映画から学ぶ「韓国」 韓国の映画を題材に、映画の中で描かれている韓国の生活習慣や価値観を読み取る。 15 授業のまとめと振り返り 「私」と「韓国文化」レポートの課題提示 		
試験			
成績評価の方法	出席状況と授業の参加姿勢。レポートの提出状況とレポートの記述内容。 テストはなし。		
教科書・参考書	随時紹介する。		



シラバス参照

タイトル「2010シラバス」、フォルダ「2010シラバス-学部」
シラバスの詳細は以下となります。

戻る

参照URL

科目コード：科目名	11310209：障害児教育概論Ⅱ		
担当教員	齋藤 一雄 河合 康 藤井 和子		
標準履修年次	2年	コマ	00
講義室		開講学期	前期
曜日・時限	時間外	単位区分	履修の手引を参照のこと
授業方法	講義	単位数	
備考	集中講義の日程 5/8(土)1～5限、5/15(土)1～5限、5/22(土)1～5限		
履修対象			
授業の到達目標・テーマ	障害や特別な教育的ニーズのある子どもの教育の理念と概要、学校における教育の実際についての基礎的な理解を得ることを目標とする。		
授業の概要	障害や特別な教育的ニーズのある子どもの教育について、その理念、概要、近年の日本や諸外国の動向、そして、学校における教育の実際を具体的に解説する。		
履修条件・注意事項(授業時間外の課題等)			
授業計画・内容(授業回数毎)	回	内容	
	1	オリエンテーション、障害や特別な教育的ニーズのあること	
	2	特別支援教育の理念と現状	
	3	通常の学級における指導と交流教育・統合保育	
	4	外国における特別支援教育の動向	
	5	みんなで取り組む特別支援教育	
	6	自立活動とその指導の実際	
	7	個別の教育支援計画と個別の指導計画	
	8	特別支援学校のセンター的役割	
	9	特別支援学校における医療的ケアと訪問教育	
	10	教育と福祉の連携・保護者との連携	
	11	就学と特別支援学校の教育課程	
	12	特別支援学校における日常生活の指導と遊び	
	13	特別支援学校における教科の指導	
	14	特別支援学校における生活単元学習と作業学習	
	15	通常の学校における障害理解教育	
試験			
成績評価の方法	1 出席 50% 2 レポート30% 3 課題レポート 20%		
教科書・参考書	教科書は使用しない。 参考図書は次のとおりである。 1 特別支援学校学校幼稚部教育要領・学習指導要領 海文道出版 2 齋藤一雄(2004)特別支援教育への第一歩～知的障害児のための授業づくり～ 明治図書 他 課題図書については講義のなかで照会する。		

戻る

上越教育大学と長岡技術科学大学との単位互換に関する協定書

上越教育大学と長岡技術科学大学は、両大学間の交流と協力を促進し、教育内容の充実を図ることを目的として、両大学の学生が、それぞれ相手大学の授業科目を履修し、単位を修得することについて合意に達したので、ここに単位互換協定（以下「協定」という。）を締結する。

（学生の受入身分）

- 1 両大学は、この協定により受け入れる学生は「特別聴講学生」とする。

（受入時期及び履修期間）

- 2 特別聴講学生の受入時期は、別に定める。
- 3 特別聴講学生の履修期間は、1年以内とし、当該年度を超えないものとする。

（授業科目の範囲及び単位数）

- 4 履修できる授業科目の範囲及び単位数は、別に定める。

（受入学生数）

- 5 両大学が受け入れる特別聴講学生数は、別に定める。

（受入手続）

- 6 特別聴講学生の受入手続は、別に定める。

（単位の認定方法等）

- 7 履修した授業科目の成績評価及び単位の認定は、受入大学の定めるところによる。
- 8 修得した単位の認定の取扱いは、派遣大学の定めるところによる。

（実施期日）

- 9 この協定による取扱いは、協定書締結年月日から実施する。

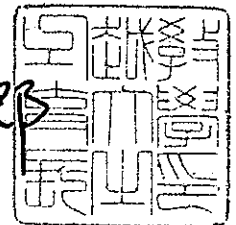
（その他）

- 10 上記の他、単位互換に関し履修上必要な事項は両大学が協議の上、別に定める。
- 11 この協定書の改廃については、両大学の学長間の協議によるものとする。

平成13年11月29日

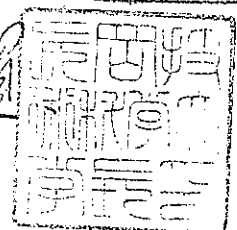
上越教育大学長

大澤 健郎



長岡技術科学大学長

根部



上越教育大学と長岡技術科学大学との単位互換に関する実施要項

上越教育大学と長岡技術科学大学との単位互換に関する協定書第10項の規定に基づき、両大学は、単位互換に関する履修上必要な事項を定めるものとする。

1 申請資格

特別聴講学生として申請できる者は、両大学に在学する2年次以上の学部学生及び大学院学生とする。

2 受入時期及び履修期間

- (1) 特別聴講学生の受入時期は、当該学生の履修する授業科目の開講期間の始めとする。
- (2) 特別聴講学生としての履修期間は、当該学生の履修する授業科目の開講期間とする。

3 履修科目の範囲及び単位数

- (1) 受入大学は、特別聴講学生が履修できる授業科目の範囲を定め、所定の期日までに派遣大学に通知する。
- (2) 特別聴講学生が履修できる単位数の上限は、派遣大学において定めるものとする。
- (3) 特別聴講学生が履修した授業科目の単位の計算については、派遣大学において定めるものとする。ただし、教職科目（教員免許取得要件）への認定は、同一の課程認定を有していることを条件とする。

4 受入学生数

受け入れる特別聴講学生数は、各授業科目毎に受入大学が定め、所定の期日までに派遣大学に通知する。

5 特別聴講学生の受入手続

- (1) 特別聴講学生を希望する学生は、派遣大学の定める期間に申請手続を行う。
- (2) 派遣大学は、授業科目毎に希望学生を取りまとめ、所定の期日までに受入大学長へ受入依頼する。
- (3) 受入大学は、所定の期日までに受入通知書を派遣大学へ送付する。
- (4) 派遣大学は、速やかに受入通知書を希望学生に送付する。
- (5) 受入通知書を受領した学生は、所定の期日までに受入大学の定める特別聴講学生の入学手続を行う。
- (6) 受入大学は、入学手続を完了した特別聴講学生の入学を許可する。

6 学生証の交付

受入大学は、受入学生に対し特別聴講学生証を交付する。

7 ガイダンスの実施及び履修登録

- (1) 派遣大学は、特別聴講学生を希望する学生に対し、単位互換の実施に関するガイダンスを行う。
- (2) 受入大学は、特別聴講学生に対し、履修方法等に関するガイダンスを行う。
- (3) 特別聴講学生の履修手続は、ガイダンスにおいて行う。

8 試験の実施方法

- (1) 試験の取扱い等の実施については、受入大学の定めるところによる。
- (2) 派遣大学と受入大学の試験日時が重複した場合は、派遣大学の授業科目について追試験等の措置を講ずるものとする。

9 成績の通知及び管理

- (1) 受入大学は、特別聴講学生の成績を所定の期日までに派遣大学へ通知する。
- (2) 受入大学は、特別聴講学生の成績原簿を保管する。

10 施設等の利用

受入大学は、特別聴講学生の履修上必要な施設・設備の利用について便宜を供与する。

11 経費の負担

特別聴講学生が授業科目を履修する上で必要となる教材費等の個人的経費については、特別聴講学生の負担とする。

12 保険等

特別聴講学生は、受入大学が必要とする場合は、学生教育研究災害障害保険等に加入する。ただし、派遣大学において加入している場合は除く。

13 規則等の遵守及び身分の取消

- (1) 特別聴講学生は、受入大学の規則等を遵守しなければならない。
- (2) 受入大学は、特別聴講学生が規則等に違反した場合、その身分を取消することができるものとする。

14 特別聴講学生に係る通知

- (1) 特別聴講学生が履修を取りやめた場合及び派遣大学を休学、退学等した場合は、派遣大学は受入大学へ通知する。
- (2) 特別聴講学生が履修している授業科目の日程変更等については、受入大学が派遣大学へ通知する。

15 その他

本実施要項に定めるもののほか、上越教育大学と長岡技術科学大学との単位互換に関する協定の運営に関し必要な事項は、両大学間の協議により定める。

平成13年11月29日

上越教育大学副学長

増井 三夫

長岡技術科学大学副学長

飯田 謙之

上越教育大学と放送大学との間における
単位互換に関する協定書

上越教育大学及び放送大学は、双方の大学の規則に定めるところにより、両大学の学生が、それぞれ相手大学の授業科目を履修し、単位を修得することを認めることとし、次の事項について合意に達したので、ここに協定書を取り交わす。

(受入れ)

第1条 放送大学に在学する学生が、上越教育大学の授業科目の履修及び単位の修得を希望するときは、上越教育大学長は当該学生を受け入れることができる。

2 上越教育大学に在学する学生が、放送大学の授業科目の履修及び単位の修得を希望するときは、放送大学長は当該学生を受け入れることができる。

(特別聴講学生)

第2条 両大学は、前条により受け入れた学生を「特別聴講学生」として取り扱う。

(履修期間)

第3条 特別聴講学生の履修期間は、上越教育大学においては授業科目の開講期間ごととし、放送大学においては1学期間ごととする。

(授業科目の範囲及び単位数)

第4条 履修できる授業科目の範囲及び修得できる単位数は、別に定める。

(学生数)

第5条 両大学の受け入れる学生数は、別に定める。

(受入れ手続)

第6条 特別聴講学生の受入れ手続は、別に定める。

(単位の授与等)

第7条 特別聴講学生の履修方法、単位の授与等については、受入れの学生の場合と同様とする。

(授業料等)

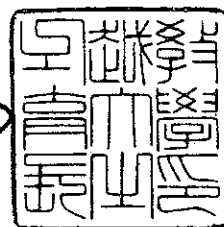
第8条 上越教育大学においては、特別聴講学生の授業料は、国立大学における授業料その他の費用に関する省令に係る通達に定める額とし、検定料及び入学料は徴収しない。

2 放送大学においては、特別聴講学生の授業料は、放送大学学則に定める額とし、入学料は徴収しない。

平成14年 7月18日

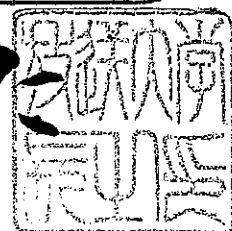
上越教育大学長

大澤健郎



放送大学長

丹保憲仁



上越教育大学と放送大学との間における
単位互換に関する協定書についての覚書

協定書作成の際、さらに下記の内容が合意に達したので、実施に当たって留意する。

記

1 受入れ学生数

放送大学が受入れる学生は、30人程度とする。

2 履修できる授業科目の範囲及び修得できる単位数

(1) 履修できる授業科目の範囲

上越教育大学学生が履修できる授業科目は、放送大学で開講するすべての放送及び印刷教材による授業科目のうち、上越教育大学において認めたものとする。

(2) 修得できる単位数

上越教育大学学生が、当該学生の在学期間を通じて修得できる単位数は、20単位以内とする。

3 出願の手續及び受入れ予定学生の決定

出願の手續及び受入れ予定学生の決定については、次に掲げる要領により取り扱う。

(1) 放送大学に特別聴講学生として出願を希望する者は、定められた期日までに出願票及び所定の書類を上越教育大学長を経て放送大学長に提出するものとする。

(2) 放送大学長は、前号により希望した者のうちから選考し、受入れ予定学生を決定する。

(3) 放送大学長は、前号で決定した学生の氏名を上越教育大学長に通知する。

4 受入れの許可

(1) 前項第2号により受入れ予定学生と決定した者は、放送大学学則に定める手續を行う。

(2) 放送大学長は、前号の手續を完了した者に対し特別聴講学生として受入れを許可する。

(3) 放送大学長は、前号で許可した学生の氏名を上越教育大学長に通知する。

5 通信指導の再提出及び再試験

放送大学長は、特別聴講学生が放送大学において履修する授業科目の通信指導の再提出及び再試験の受験を、各1回認める。

6 成績評価及び単位授与の方法

特別聴講学生が放送大学において履修した授業科目の成績の評価及び単位の授与については、放送大学学則の定めるところによる。

7 単位認定試験の実施方法

上越教育大学を会場として単位認定試験を実施するに際しては、「放送大学単位認定試験実施要領」に則って行うこととする。

8 放送大学は、特別聴講学生が履修上必要な施設・設備の利用については、便宜を供与する。

9 この覚書に定めるもののほか、本協定の運営に関し必要な事項は、両大学長間の協議により定める。

平成14年 7月18日

上越教育大学長

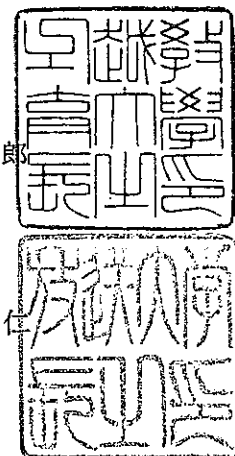
大澤健

郎

放送大学長

丹保憲

仁



【別添資料5-1-1】

平成22年度学部及び大学院学生の主な履修指導スケジュール

本学の学則及び履修規程その他関係諸規則に基づき、クラス担当教員、専門セミナー担当教員、学位論文等指導教員、アドバイザー、教務委員会及び事務局（教育支援課）が連携を取りながら、以下のとおり履修指導を行う。

時 期	学 部 学 生	大学院学生（長期履修制度学生、免許プログラム受講生を含む。）
4月以降	学部在学学生（2・3・4年次）及び大学院在学学生（2・3年次） ・「授業科目一覧」及び「聴講票」の資料配付	
4月6～7日以降	新入生オリエンテーション ・「履修の手引」及び「授業科目一覧」等に基づく履修指導 ----- クラス担当教員、専門セミナー担当教員、アドバイザー、教育支援課等による履修（教員免許）指導	
4月8日	授業開始	
4月19日	保育士資格取得希望申請書の提出期限（1年次）	
4月23日	専修・コースの希望調査票の提出期限（1年次）	
4月30日	学務情報システムによる履修登録期限	
	卒業研究題目届の提出期限（留年次）	修得単位免除許可申請書の提出期限（専：1年次）
		取得希望免許届の提出期限（免プロ：1年次）
5月19日	保育士資格取得希望学生選抜試験（1年次）	
5月31日正午		学位論文等題目届の提出期限（修：留年次） 研究指導計画書の作成提出期限（修）
5月	卒業（修了）仮判定及び免許単位仮判定（学部4年次、大学院修了年次）	
6月15日正午		免P受講取消申請書の提出期限（1年次）
6月中旬	専修・コースの希望結果の公表（1年次）	
6月30日		研究指導計画書の学生提示期限（修）
6月下旬 ～7月上旬		専攻・コース変更願の出願受付（1年次・免プロ2年次）
7月22日 ～7月28日	前期授業最終日（成績報告期限：8月31日） 前期期末試験（7月30日～8月5日）	
8月2日正午	卒業論文の提出期限（留年次）	学位論文等の提出期限（修：留年次）
11月1日正午	卒業研究題目届の提出期限（4年次）	学位論文等題目届の提出期限（修：修了年次） 免P受講取消申請書の提出期限（2年次）
11月上旬	第1回専修・コース説明会・予備調査（1年次）	
11月下旬	専修・コースの予備調査結果の公表（1年次）	
12月上旬	教員免許状の一括授与申請書類の提出期限	
12月上旬 ～1月上旬	専修・コース変更願の出願受付（2年次～）	専攻・コース変更願の出願受付（1年次・免プロ2年次）
1月11日正午		学位論文等の提出期限（修：修了年次） 学修成果報告書の提出期限（専：修了年次）
1月31日正午	卒業論文の提出期限（4年次）	
1月31日 ～2月4日	後期授業最終日（成績報告期限：2月18日） 後期期末試験（2月7日～2月14日）	
2月上旬	第2回専修・コース説明会・本調査（1年次）	
2月下旬	再試験の実施（4年次）	
3月上旬	専修・コースの所属発表（1年次） 1年次生進級判定 3年次生進級判定 卒業判定	修了判定
3月下旬		研究指導実績報告書の作成提出期限（修）3月末
3月中旬 ～4月中旬	単位修得不備者に対する直接指導 ・クラス担当教員、専門セミナー担当教員、アドバイザー、教務委員会及び教育支援課による指導 ・教育実習委員会（教育実習の履修資格に関して）による指導	

注）(1) この他に随時、教育支援課窓口において履修指導を行う。

平成22年3月4日

教員各位

教務委員会委員長

平成22年度シラバス及びオフィスアワーの登録について（依頼）

このことについて、添付ファイルの「成績の評価方法及び修学指導等に関する取扱い」、「オフィス・アワー実施要項」を踏まえて、下記により3月31日（水）までにご登録くださるようお願いいたします。4月1日（木）からシラバスを公開します。

また、平成22年度から、掲載項目の「授業計画・内容（授業回数毎）」の次に「試験」が追加されましたので、試験を行う場合は、「試験」欄にご記載下さい。（記載例：試験・補講期間に試験を実施）

なお、単位等は同時調整中ですので、ご了承願います。

記

1. 登録方法

学務情報システム（LiveCampus）のメニューで、シラバスは「シラバス作成」、オフィスアワーは「教員情報の更新」から行います。

添付ファイルの「シラバス作成方法」、「オフィスアワー登録方法」及びシステム画面上の手引き、ヘルプを参考にしてください。

【シラバス】

○次の項目について入力します。

授業の到達目標・テーマ	授業の到達目標とテーマをそれぞれ記載します。
授業の概要	授業の概要と目標をそれぞれ記載します。
履修条件・注意事項	履修にあたっての条件や注意事項を記載します。 ※授業科目で求める授業時間外の課題（予習内容やレポート課題）を明記してください。
授業計画・内容	実際の授業に即したものを授業回数に対応して記載します。 ※登録時に15週形式又は30週形式を選択してください。 ※単位数と授業回数の関係は次のとおりで、回数は時間割のコマ数に対応します。 講義，演習-----1単位：8回，2単位：15回 実験，実習，実技----1単位：15回，2単位：30回 ※専門セミナー等科目の性質により授業回数に対応し記載することが困難な場合を除きます。
試験	試験の予定を記載します。

成績評価の方法
教科書・参考書

成績評価の方法を詳しく記載します。
教科書や参考書を記載します。
※ない場合はその旨記載します。

○学部科目で、教員養成実地指導講師について表記する場合は、授業計画・内容欄にその旨を付記します。

○学生が部活動等で授業を欠席した場合の成績評価の取扱いを成績評価の方法欄に付記します。

記載例：部活動等で授業を欠席した場合は、基本的には欠席扱いとしますが、補講等により対処し評価を行います。

○複数教員担当科目は、責任者又は時間割でトップに記載の教員を編集担当教員としています。編集担当教員を変更されたい場合は教育支援課へご連絡ください。

○前年度の内容又は複数開講している同一科目をコピーし編集する場合は、「内容上書」ボタンによりコピーすることができます。添付の「シラバス作成方法」をご覧ください。

○非常勤講師担当科目は、担当教員から非常勤講師へご依頼いただき、添付ファイルの「シラバス作成様式」等電子データで教育支援課までご提出ください。教育支援課で登録します。

○各項目の編集画面で登録ボタンを押下するとその時点でのデータは保存されますので、作成画面で確定ボタンを押下しなければ、再度編集することができます。

確定後に編集をする場合は、確定状態を解除しますので教育支援課へご連絡ください。

○シラバス一覧画面にある確定状態項目が「確定済」になっていることをご確認ください。確定済になっていないと公開されません。

【オフィスアワー】

○学生からの履修相談や担当授業科目に関する質問等に応じる時間帯と場所を入力します。また、試験実施後に当該試験に関する質問等に応じる時間帯もあわせて入力します。

○情報は年度単位で管理していません。常時公開していますので、編集して登録すると直ちに新内容が反映されます。

内容を編集しない限りそのまま公開されていますので、ご注意ください。

2.登録期限

平成22年3月31日（水）

3.内外へのシラバス公開日

平成22年4月1日（木）

4.担当

教育支援課教務支援チーム（佐藤）

内線：3278 E-mail：kyosien@juen.ac.jp

平成22年1月

平成21年度シラバスの点検結果報告書

1. 点検実施日 平成21年6月18日
2. 報告状況 回答率76% … 115名 / 151名
(編集担当教員で、非常勤講師を除く。)

3. 点検結果

1) [項目] 授業の到達目標・テーマ

[チェック内容] 授業の到達目標・テーマが明確に記載されているか。

[チェック結果] 適当 114名 不適当 1名

[理由]

適当

- ・明示されている。
- ・教職に携わる者としてのどのような側面を伸ばすのかについて記載している。
- ・シラバスの記載には限界があるが、受講者には、それなりの理解が可能であると判断することができる。
- ・記載されている。
- ・すべて書き出してあります。
- ・到達目標、テーマが明確になるよう、シラバスを作成した。
- ・心理学や教育学に関する量的研究を行う上で必要となるデータ解析の手法を身につけることが目標であることを明記している。
- ・学生に学んでほしい授業のねらいを提示して、それを具体的に個々の時間ごとに設定している。
- ・到達目標とテーマについて記載してある。
- ・授業の到達目標およびテーマは、授業の概要に明確に示されている。
- ・テーマは具体的かつ明らかに記載されているため。
- ・テーマごとに記載している。

不適当

- ・学部2年「教師・授業文化論」のシラバスで「授業の概要」と内容が重複している。

2) [項目] 授業の概要

[チェック内容] 授業の概要が明確に記載されているか。

[チェック結果] 適当 1 1 2 名 不適当 3 名

[理由]

適当

- ・明示されている。
- ・目標とされた側面を伸ばすために講義の中でどのような内容を扱うかを中心に記載している。
- ・授業の概要をシラバスで判断できるほど、単純な内容ではないが、方向性を推測することは可能と思える。
- ・記載されている。
- ・15回分すべて書いてあります。
- ・授業の概要は字数制約があったものの、明確になるよう記載した。
- ・講義で扱うデータ解析の手法等について記載されている。
- ・ねらいに基づいて、具体的に学んでほしいことを概要で記載している。
- ・授業の概要について回ごとに記載してある。
- ・授業の概要が、授業目標に沿う形で明確かつ具体的に示されているため。
- ・概要は明らかとなっている。
- ・それぞれに時間ごとに書いている。

不適当

- ・学部2年「教師・授業文化論」のシラバスで「授業の到達目標・テーマ」と内容が重複している。
- ・ある一つの大学院授業科目について、一部の受講生から科目名から想像していた内容とは異なっていたとの指摘があった。学部の授業科目とは内容が異なることを十分説明した上、その受講生は納得して授業を履修したが、次年度からは記載内容を改善し、受講生が授業の内容を理解した上で受講できるようにしたい。
- ・「授業の到達目標・テーマ」と同じ文章が入っているので来年度は改編したい。

3) [項目] 履修条件・注意事項（授業時間以外の課題等）

[チェック内容] 履修にあたっての条件・注意事項，授業時間以外の課題等が記載されているか。

[チェック結果] 適当 1 1 3 名 不適当 2 名

[理由]

適当

- ・明示されている。
- ・授業時間外の作業を含む場合も多いが、そうした作業が含まれることも明記し、条件を納得した上で履修してもらえるようにしている。
- ・それぞれが明確に指示されている。ただ、授業時間以外の課題の捉え方は受講者によって意識の差は大きい。
- ・記載されている。

- ・守るべき条件は書かれてあります。最終レポートは授業時間外の課題です。
- ・授業時間外の課題は授業時に指定しているが、履修条件、注意事項は適切に明記した。
- ・大学院の講義については学部卒業程度の統計学の知識を有している事が望ましいことや、講義中に使用するソフトウェアについて記載している。
- ・より具体的に記載している。ただし、示していても、学生はその授業の約束事を守らない学生はいる。
- ・履修にあたっての注意事項を記載している。
- ・適宜記載されている。
- ・履修に当たっての条件は、シラバスに明示されている。
- ・条件について書いている。

□不适当

- ・平成20年度以前の学生を対象とする科目に、その旨の記載がなかった。ただし、前期の科目なのですでに進行中。来年度、付加する予定。
- ・当該授業における特定の事項がなかったため。

4) [項目] 授業計画・内容

[チェック内容] 実際の授業に即したものが授業回数に対応して記載されているか。

[チェック結果] 适当 109名 不适当 6名

[理由]

□适当

- ・記載されている。
- ・15回の講義の1回ごとの内容を記載する形になっており、講義全体がどのような話題あるいは活動で進められるかのイメージがつかめるようにしている。
- ・左の規定通りになっている。
- ・それぞれの授業の性格に対応しています。
- ・シラバスでは授業回数に対応して授業計画・内容を明記している。
- ・講義の各回について取り上げる内容を大まかにではあるが提示している。
- ・記載してある。
- ・回数に応じて授業内容を記載している。
- ・規定の授業回数が示されている。
- ・すべての担当科目について、講義、演習共に15回分の授業計画が示されている。
- ・回数分の内容は全て記載されている。
- ・授業回数に対応して記載している。

□不适当

- ・5月1日着任のため、授業は4月には開講されていない。不足分は、補講ではなく、レポート提出を求めることで対応した。
- ・衛生学・公衆衛生学の授業で保育士免許取得希望者の受講生がおり、15回目を試験日にしていたため（本来、授業をすべき）。
- ・必ずしも授業回数に対応することが適切とは思えない場合は、書いていない。キーワード等で内容を明示している。

- ・当初の計画と実際の授業内容にズレが生じた。新任のため授業ペースがつかめず計画を作成したのが原因。
- ・音楽の実技指導では、個々の受講者により進度が異なり授業回数に対応して記載するのが困難なため。
- ・教育実地調査分析演習Ⅱが授業回数毎に提示されていない。(質問紙調査・インタビュー観察の2つに分かれて実習形式で授業を進めるため) 来年度は改善したい。

5) [項目] 成績評価の方法

[チェック内容] 成績評価の方法が明確に記載されているか。

[チェック結果] 適当 114名 不適当 1名

[理由]

適当

- ・記載されている。
- ・講義の参加の仕方や途中の作業なども含めて、計画全体をみすえた評価の方法が記載されている。
- ・学生の努力目標が明らかである。
- ・出席重視，総合的な評価が明記されている。
- ・成績評価の方法は明確に記載している。
- ・期末テストや講義中に出されるレポートで成績評価を行うことが記載されている。
- ・成績評価について記載している。
- ・授業の構成要素をバランスよく記載してある。
- ・評価観点が記載されている。
- ・成績評価の方法は，シラバスに明示されている。
- ・レポートか試験かは明確に記載されている。
- ・テストを行うが実験に対して出席を重視している。

不適当

- ・評価点の配分方法について次回に備え，現在検討中である。

6) [項目] 教科書・参考書

[チェック内容] 教科書や参考書が記載されているか。

[チェック結果] 適当 104名 不適当 11名

[理由]

適当

- ・シラバスに注記してある。
- ・学部ではその分野の基本文献をあげるが，大学院では受講者の層やニーズに応じて紹介する形をとるような記載にしている。
- ・文献は明記されており，新資料に対して柔軟に対応が可能である。
- ・記載されている。
- ・教科書は指定していないが，授業内容に関連する必要文献を記載している。
- ・講義で使用する教科書や参考書がある場合は，それを記載している。

- ・記載してある。
- ・教科書を記載し、プリントを配布することも加えてある。
- ・自分の著書が教科書です。
- ・適宜記載済みである。
- ・核となる教科書と参考書が記載されている。
- ・参考書等は、随時、授業内で紹介する旨、明記されている。
- ・教科書は使用していない。参考書が有る場合には、記してある。
- ・記載してないが授業の始まる前に参考書の紹介をしている。また、プリントを配っている。
- ・ただし、スポーツ実践については複数担当なので、教員に応じて異なるという意味の記載にとどめている。

□不适当

- ・適当な教科書がなく、指定が難しい。ただし、授業ごとに参考資料は紹介している。
- ・手作りの資料を用い授業中に参考書等を紹介するため。
- ・「必要に応じて指示する」形になっているものがあり、今後改めます。できるだけ上げたいと思う。ただ実験・実習の授業もあり考える所です。
- ・プリントを配布している。
- ・「講義中に適宜参考書を紹介する。」と書いてある部分を今後、具体的に記述したい。
- ・資料は別途用意しているため。
- ・授業内で適宜紹介しているので。
- ・「参考資料をその都度配布する」としている。具体的な著作物は明示していない。
- ・シラバスではなく講義の中で示している。(数が多い)
- ・無し

平成22年度 大学院開講授業科目(修士課程) (抜粋)

(注) 1 授業科目欄に示す記号は、次のとおりです。

◎：必修科目 ○：選択必修科目

2 単位欄に示す記号は、次のとおりです。

L：講義 S：演習 P：実験・実習・実技

3 複数の教員が担当する授業科目の責任者は、担当教員欄の先頭の教員です。

ただし、☆がついている場合は、その教員が授業科目の責任者となります。

[] は、非常勤講師を示します。

4 教室欄に示す記号は、次のとおりです。

講：講義棟・第2講義棟 人：人文棟 自：自然棟 実：実験棟

音：音楽棟 美：美術棟 体：体育棟 教：教職大学院棟

平成22年度 学校教育研究科 開設授業科目(抜粋)

科目番号	授業科目名	単位	担当教員	学 期	曜日	時限	使用教室	備 考
5073	◎ 学習臨床研究セミナーⅠ	S4	増井三,小林恵,朝倉,松本健義,布川,佐久間,両角,南部,井上,石川,高野,川村,藤岡,田島,釜田,五百川,梅野,古閑,五十嵐	前 後	金	5	講201,人607,プレゼンテーション室 教員研究室	H19年度以前入学者用
5074	◎ 学習臨床研究セミナーⅡ	S4	増井三,小林恵,朝倉,松本健義,布川,佐久間,両角,南部,井上,石川,高野,川村,藤岡,田島,釜田,五百川,梅野,古閑,五十嵐	前 後	金	5	講201,人607,プレゼンテーション室 教員研究室	H19年度以前入学者用
5122	◎ 発達臨床研究セミナーⅠ	S4	中山,内藤,越,奥村,森口,林,橋本,大前,安藤,末松,稲垣,白木,辻村,生澤,井	前 後	月	1	人202	H19年度以前入学者用
5123	◎ 発達臨床研究セミナーⅡ	S4	中山,内藤,越,奥村,森口,林,橋本,大前,安藤,末松,稲垣,白木,辻村,生澤,井	前 後	月	1	人202	H19年度以前入学者用
5155	◎ 臨床心理研究セミナーⅠ	S4	内田,加藤哲文,五十嵐透,宮下,佐藤淳,高橋靖	前 後	火	4	教員研究室	H19年度以前入学者用
5156	◎ 臨床心理研究セミナーⅡ	S4	内田,加藤哲文,五十嵐透,宮下,佐藤淳,高橋靖	前 後	火		教員研究室	H19年度以前入学者用
5170	○ 子どもの発達理解研究セミナーⅠ	S4	鈴木	前 後	月	5	人602他	H19年度以前入学者用
5171	○ 子どもの発達理解研究セミナーⅡ	S4	鈴木	前 後	火	5	人602他	H19年度以前入学者用
5172	○ 子どもの生活環境研究セミナーⅠ	S4	丸山	前 後	火	4	人604	H19年度以前入学者用
5173	○ 子どもの生活環境研究セミナーⅡ	S4	丸山	前 後	火	5	人604	H19年度以前入学者用
5174	○ 子どもの表現研究セミナーⅠ	S4	香曾我部	前 後	火	4	人506	H19年度以前入学者用
5175	○ 子どもの表現研究セミナーⅡ	S4	香曾我部	前 後	火	5	人506	H19年度以前入学者用
5176	○ 生活科教育・教育研究セミナーⅠ	S4				休講		H19年度以前入学者用
5177	○ 生活科教育・教育研究セミナーⅡ	S4				休講		H19年度以前入学者用
5178	○ 幼稚園教育・教育研究セミナーⅠ	S4	杉浦	前 後	火	4	人601	H19年度以前入学者用
5179	○ 幼稚園教育・教育研究セミナーⅡ	S4	杉浦	前 後	火		人601	H19年度以前入学者用
5225	◎ 特別支援教育実践学研究セミナーⅠ	S4	我妻,大庭,土谷,齋藤,河合,葉石,藤井,笠原,村中,	前 後	不定期		教員研究室	H19年度入学者用
5226	◎ 特別支援教育実践学研究セミナーⅡ	S4	我妻,大庭,土谷,齋藤,河合,葉石,藤井,笠原,村中,	前 後	不定期		教員研究室	H19年度入学者用
5265	◎ 学習臨床研究セミナーⅠ	S4	増井三,小林恵,朝倉,松本健義,布川,佐久間,両角,南部,井上,石川,高野,川村,藤岡,田島,釜田,五百川,梅野,古閑,五十嵐	前 後	金	5	講201,人607,プレゼンテーション室 教員研究室	H20年度以後入学者用
5266	◎ 学習臨床研究セミナーⅡ	S4	増井三,小林恵,朝倉,松本健義,布川,佐久間,両角,南部,井上,石川,高野,川村,藤岡,田島,釜田,五百川,梅野,古閑,五十嵐	前 後	金	5	講201,人607,プレゼンテーション室 教員研究室	H20年度以後入学者用
5295	◎ 生徒指導総合研究セミナーⅠ	S4	林,橋本,大前,安藤,末松,稲垣,白木,辻村,生澤,井	前 後	月	1	人202	H20年度以後入学者用
5296	◎ 生徒指導総合研究セミナーⅡ	S4	林,橋本,大前,安藤,末松,稲垣,白木,辻村,生澤,井	前 後	月	1	人202	H20年度以後入学者用
5312	◎ 学校心理研究セミナーⅠ	S4	内藤,中山,越,奥村,森口	前 後	月	1	教員研究室	H20年度以後入学者用
5313	◎	S4	内藤,中山,越,奥村,森口	前 後	月	1	教員研究室	H20年度以後入学者用
5345	◎ 臨床心理研究セミナーⅠ	S4	内田,加藤哲文,五十嵐透,宮下,佐藤淳,高橋靖	前 後	火	4	教員研究室	H20年度以後入学者用
5346	◎ 臨床心理研究セミナーⅡ	S4	内田,加藤哲文,五十嵐透,宮下,佐藤淳,高橋靖	前 後	火	4	教員研究室	H20年度以後入学者用
5359	○ 子どもの発達理解研究セミナーⅠ	S4	鈴木	前 後	月	5	人602他	H20年度以後入学者用
5360	○ 子どもの発達理解研究セミナーⅡ	S4	鈴木	前 後	火	5	人602他	H20年度以後入学者用

5361	○ 子どもの生活環境研究セミナーⅠ	S4	丸山	前	後	火	4	人604	H20年度以後入学者用
5362	○ 子どもの生活環境研究セミナーⅡ	S4	丸山	前	後	火	5	人604	H20年度以後入学者用
5363	○ 子どもの表現研究セミナーⅠ	S4	香曾我部	前	後	火	4	人506	H20年度以後入学者用
5364	○ 子どもの表現研究セミナーⅡ	S4	香曾我部	前	後	火	5	人506	H20年度以後入学者用
5365	○ 幼児教育・教育研究セミナーⅠ	S4	杉浦	前	後	火	4	人601	H20年度以後入学者用
5366	○ 幼児教育・教育研究セミナーⅡ	S4	杉浦	前	後	火	5	人601	H20年度以後入学者用
5420	◎ 特別支援教育実践学研究セミナーⅠ	S4	我妻,大庭,土谷,齋藤,河合,葉石,藤井,笠原,村中,	前	後	不定期		教員研究室	H20年度以後入学者用
5421	◎ 特別支援教育実践学研究セミナーⅡ	S4	我妻,大庭,土谷,齋藤,河合,葉石,藤井,笠原,村中,	前	後	不定期		教員研究室	H20年度以後入学者用
5445	○ 国語科教育基礎研究セミナー	S4	有澤,渡部,迎	前	後	火	1	人402	
5446	○ 国語科教育応用研究セミナー	S4	有澤,渡部,迎	前	後	月水	3 1	人402	
5447	○ 国語学基礎研究セミナー	S4	野村,高本,中里	前	後	火	1	前期:講104 後期:人201	
5448	○ 国語学応用研究セミナー	S4	野村,高本,中里	前	後	月水	3 1	人202	
5449	○ 国文学基礎研究セミナー	S4	下西,小笠	前	後	火	1	人203	
5450	○ 国文学応用研究セミナー	S4	下西,小笠	前	後	月水	3 1	人203	
5451	○ 書写書道基礎研究セミナー	S4	押木	前	後	月	5	人215	
5452	○ 書写書道応用研究セミナー	S4	押木	前	後	火	5	人215	
5477	○ 英語学基礎研究セミナー	S4	加藤雅,野地	前	後	金	5	教員研究室	
5478	○ 英語学応用研究セミナー	S4	加藤雅,野地	前	後	金	5	教員研究室	
5479	○ 英米文学基礎研究セミナー	S4	前川	前	後	金	5	教員研究室	
5480	○ 英米文学応用研究セミナー	S4	前川	前	後	金	5	教員研究室	
5481	○ 英語教育基礎研究セミナー	S4	平野絹,石濱,大場浩	前	後	金	5	教員研究室	
5482	○ 英語教育応用研究セミナー	S4	平野絹,石濱,大場浩	前	後	金	5	教員研究室	
5483	○ 小学校英語教育基礎研究セミナー	S4	北條,石濱	前	後	金	5	教員研究室	
5484	○ 小学校英語教育応用研究セミナー	S4	北條,石濱	前	後	金	5	教員研究室	
5507	○	S4	赤羽,佐藤芳,山縣	前	後	水	2	人405他	
5508	○ 地理学研究セミナーⅡ	S4	赤羽,佐藤芳,山縣	前	後	水	2	人405他	
5509	○ 日本史システム研究セミナーⅠ	S4	浅倉,畔上	前	後	金	2	史学資料室	
5510	○ 日本史システム研究セミナーⅡ	S4	浅倉,畔上	前	後	金	2	史学資料室	
5511	○ 外国史システム研究セミナーⅠ	S4	下里	前	後	金	2	下里研究室	
5512	○ 外国史システム研究セミナーⅡ	S4	下里	前	後	金	2	下里研究室	
5513	○ 倫理学研究セミナーⅠ	S4				休講			
5514	○ 倫理学研究セミナーⅡ	S4				休講			
5515	○ 宗教学研究セミナーⅠ	S4	松田	前	後	水		松田研究室	
5516	○ 宗教学研究セミナーⅡ	S4	松田	前	後	水	2	松田研究室	
5517	○ 法律学研究セミナーⅠ	S4	小島	前	後	水		小島研究室	
5518	○ 法律学研究セミナーⅡ	S4	小島	前	後	水	2	小島研究室	

5519	○ 経済学研究セミナーⅠ	S4	吉田	前	後	月	2	社会系会議室	
5520	○ 経済学研究セミナーⅡ	S4	吉田	前	後	月		社会系会議室	
5521	○ 社会学研究セミナーⅠ	S4						休講	
5522	○ 社会学研究セミナーⅡ	S4						休講	
5523	○ 社会科教育学研究セミナーⅠ	S4	山本,茨木,志村	前	後	月	1	人201	
5524	○ 社会科教育学研究セミナーⅡ	S4	山本,茨木,志村	前	後	月	1	人201	
5536	○ 代数学研究セミナーⅠ	S4	中川	前	後	月	5	自717	
5537	○ 代数学研究セミナーⅡ	S4	中川	前	後	火		自717	
5538	○ 幾何学研究セミナーⅠ	S4	溝上	前	後	月		自719	
5539	○ 幾何学研究セミナーⅡ	S4	溝上	前	後	火		自719	
5540	○ 解析学研究セミナーⅠ	S4	松本健吾	前	後	火		自718	
5541	○ 解析学研究セミナーⅡ	S4	松本健吾	前	後	火	5	自718	
5542	○ 数学教育学研究セミナーⅠ	S4	高橋等,伊達,宮川	前	後	木	1	自718	
5543	○ 数学教育学研究セミナーⅡ	S4	高橋等,伊達,宮川	前	後	金	1	自716	
5590	○ 物理学研究セミナーⅠ	S4	定本,長谷川敦	前	後	金		実102	
5591	○ 物理学研究セミナーⅡ	S4	定本,長谷川敦	前	後	金	5	実102	
5592	○ 化学研究セミナーⅠ	S4	高津戸,下村博	前	後	火月	2 1	自512,自511	
5593	○ 化学研究セミナーⅡ	S4	高津戸,下村博	前	後	火月		自512,自511	
5594	○ 生物学研究セミナーⅠ	S4	小川,谷	前	後	金		自402	
5595	○ 生物学研究セミナーⅡ	S4	小川,谷	前	後	金	5	自402	
5596	○ 地学研究セミナー	S4	大場孝,天野,濤崎	前	後	金		自602	
5597	○ 地学研究セミナー	S4	大場孝,天野,濤崎	前	後	金	5	自602	
5598	○	S4	小林辰,稲田	前	後	金	5	実204	
5599	○ 理科教育学研究セミナーⅡ	S4	小林辰,稲田	前	後	金	5	実204	
5600	○ 理科野外観察指導研究セミナーⅠ	S4	中村	前	後	金		実202	
5601	○ 理科野外観察指導研究セミナーⅡ	S4	中村	前	後	金		実202	
5641	○ 音楽教育研究セミナーⅠ	S4	峯岸,時得	前	後	金		音101	
5642	○ 音楽教育研究セミナーⅡ	S4	峯岸,時得	前	後	金	5	音101	
5643	○ 音楽学研究セミナーⅠ	S4	玉村	前	後	金	5	音102	
5644	○ 音楽学研究セミナーⅡ	S4	玉村	前	後	金		音102	
5645	○ 声楽研究セミナーⅠ	S4	上野正	前	後	金	5	音301	
5646	○ 声楽研究セミナーⅡ	S4	上野正	前	後	金	5	音301	
5647	○ 器楽研究セミナーⅠ	S4	平野俊,長谷川正	前	後	金	5	教員研究室	
5648	○ 器楽研究セミナーⅡ	S4	平野俊,長谷川正	前	後	金	5	教員研究室	
5649	○ 作曲研究セミナーⅠ	S4	後藤,阿部亮	前	後	金		音501	
5650	○ 作曲研究セミナーⅡ	S4	後藤,阿部亮	前	後	金		音501	
5677	○ 絵画教育基礎研究セミナーⅠ	S4	洞谷,伊藤将	前	後	金	5	美110,美310 他	
5678	○ 絵画教育応用研究セミナーⅠ	S4	洞谷,伊藤将	前	後	金	5	美110,美310 他	
5679	○ 彫刻教育基礎研究セミナーⅠ	S4	松尾	前	後	金	5	美202	
5680	○ 彫刻教育応用研究セミナーⅠ	S4	松尾	前	後	金		美202	

5681	○ デザイン教育基礎研究セミナー	S4	安部	前	後	金	5	美204	
5682	○ デザイン教育応用研究セミナー	S4	安部	前	後	金	5	美204	
5683	○ 工芸教育基礎研究セミナー	S4	西村,高石	前	後	金	5	美102,美104	
5684	○ 工芸教育応用研究セミナー	S4	西村,高石	前	後	金	5	美102,美104	
5685	○ 美術史教育基礎研究セミナー	S4				休講			
5686	○ 美術史教育応用研究セミナー	S4				休講			
5687	○ 美術科教育基礎研究セミナー	S4	阿部靖,五十嵐史	前	後	金	5	美410他	
5688	○ 美術科教育応用研究セミナー	S4	阿部靖,五十嵐史	前	後	金	5	美410他	
5711	○ 運動方法学研究セミナーⅠ	S4	大橋,清水富,直原,榊原,土田	前	後	金	5	教員研究室	
5712	○ 運動方法学研究セミナーⅡ	S4	大橋,清水富,直原,榊原,土田	前	後	金	5	教員研究室	
5713	○ 体育学研究セミナーⅠ	S4	加藤泰	前	後	金	5	教員研究室	
5714	○ 体育学研究セミナーⅡ	S4	加藤泰	前	後	金		教員研究室	
5715	○ 体育心理学研究セミナーⅠ	S4	伊藤政	前	後	金		教員研究室	
5716	○ 体育心理学研究セミナーⅡ	S4	伊藤政	前	後	金	5	教員研究室	
5717	○ 保健体育科教育研究セミナーⅠ	S4	周東	前	後	金	5	教員研究室	
5718	○ 保健体育科教育研究セミナーⅡ	S4	周東	前	後	金	5	教員研究室	
5719	○ バイオメカニクス研究セミナーⅠ	S4	市川	前	後	金	5	教員研究室	
5720	○	S4	市川	前	後	金	5	教員研究室	
5721	○ 学校保健学研究セミナーⅠ	S4	下村義	前	後	金	5	教員研究室	
5722	○ 学校保健学研究セミナーⅡ	S4	下村義	前	後	金	5	教員研究室	
5741	○ 木材加工研究セミナーⅠ	S4	東原	前	後	金	5	自107	H19年度以後入学者用
5742	○ 木材加工研究セミナーⅡ	S4	東原	前	後	金	5	自107	H19年度以後入学者用
5743	○ 金属加工学研究セミナーⅠ	S4				休講			
5744	○ 金属加工学研究セミナーⅡ	S4				休講			
5745	○ メカトロニクス研究セミナーⅠ	S4	黎	前	後	金	5	自110	
5746	○ メカトロニクス研究セミナーⅡ	S4	黎	前	後	金	5	自110	
5747	○ 応用電気理論研究セミナーⅠ	S4	川崎	前	後	金	5	自105	
5748	○ 応用電気理論研究セミナーⅡ	S4	川崎	前	後	金	5	自105	
5749	○ 知識情報処理研究セミナーⅠ	S4	大森	前	後	金		自101	
5750	○ 知識情報処理研究セミナーⅡ	S4	大森	前	後	金		自101	
5751	○ 技術科教育研究セミナーⅠ	S4	山崎	前	後	金	5	自103	
5752	○ 技術科教育研究セミナーⅡ	S4	山崎	前	後	金	5	自103	
5773	○ 家庭経営学研究セミナーⅠ	S4	細江	前	後	木	4	自308	
5774	○ 家庭経営学研究セミナーⅡ	S4	細江	前	後	木	4	自308	
5775	○ 被服学研究セミナーⅠ	S4	佐藤悦	前	後	月	3	実103	
5776	○ 被服学研究セミナーⅡ	S4	佐藤悦	前	後	月		実103	

5777	○ 食科学研究セミナーⅠ	S4	光永,立屋敷	前	後	金	5	自217,実205	
5778	○ 食科学研究セミナーⅡ	S4	光永,立屋敷	前	後	金	5	自217,実205	
5779	○ 児童学研究セミナーⅠ	S4	吉澤	前	後	金	5	実103	
5780	○ 児童学研究セミナーⅡ	S4	吉澤	前	後	金	5	実103	
5781	○ 家庭科教育学研究セミナーⅠ	S4	得丸,佐藤ゆ	前	後	火	4	自305,自309	
5782	○ 家庭科教育学研究セミナーⅡ	S4	得丸,佐藤ゆ	前	後	火	4	自305,自309	
5817	◎ 学校ヘルスケア研究セミナーⅠ	S4	増井晃,上野光,下村義,立屋敷,角田,光永	前	後	木	5	人207,実205,自217,教員研究室	H20年度以前入学者用
5818	◎ 学校ヘルスケア研究セミナーⅡ	S4	増井晃,上野光,下村義,立屋敷,角田,光永	前	後	木	5	人207,実205,自217,教員研究室	H20年度以前入学者用
5819	○ 教育保健研究セミナーⅠ	S4	下村義	前	後	木		体405	H21年度以後入学者用
5820	○ 教育保健研究セミナーⅡ	S4	下村義	前	後	木	5	体405	H21年度以後入学者用
5821	○ 養護教育研究セミナーⅠ	S4	角田	前	後	木		体103	H21年度以後入学者用
5822	○ 養護教育研究セミナーⅡ	S4	角田	前	後	木	5	体103	H21年度以後入学者用
5823	○ 精神保健研究セミナーⅠ	S4	増井晃	前	後	木		教員研究室	H21年度以後入学者用
5824	○ 精神保健研究セミナーⅡ	S4	増井晃	前	後	木		教員研究室	H21年度以後入学者用
5825	○ 臨床病態研究セミナーⅠ	S4	上野光	前	後	木	5	教員研究室	H21年度以後入学者用
5826	○ 臨床病態研究セミナーⅡ	S4	上野光	前	後	木	5	教員研究室	H21年度以後入学者用
5827	○ 食と健康研究セミナーⅠ	S4	立屋敷	前	後	木	5	実205,自217	H21年度以後入学者用
5828	○ 食と健康研究セミナーⅡ	S4	立屋敷	前	後	木		実205,自217	H21年度以後入学者用
5829	○ 食品機能研究セミナーⅠ	S4	光永	前	後	木	5	自217	H21年度以後入学者用
5830	○ 食品機能研究セミナーⅡ	S4	光永	前	後	木	5	自217	H21年度以後入学者用
5831	○ 食の科学研究セミナーⅠ	S4	増井晃,上野光,立屋敷,角田,光永	前	後	木	5	実205,自217,教員研究	H21年度以後入学者用
5832	○ 食の科学研究セミナーⅡ	S4	増井晃,上野光,立屋敷,角田,光永	前	後	木	5	実205,自217,教員研究	H21年度以後入学者用



シラバス参照

タイトル「2010シラバス」、フォルダ「2010シラバス-大学院修士課程」

シラバスの詳細は以下となります。



科目コード：科目名	19000002：研究プロジェクト・セミナー		
担当教員	久保田 善彦 古閑 晶子 橋本 定男 藤井 和子 石濱 博之 藤田 武志 中村 雅彦 西村 俊夫 清水 雅之		
標準履修年次	1年	コマ	00
講義室		開講学期	後期
曜日・時限	時間外	単位区分	履修の手引を参照のこと
授業方法	演習	単位数	2.0
備考			
履修対象			
授業の到達目標・テーマ	多様な研究方法と研究体系を学び、教育実践研究の推進を視座に入れた個々の修士論文研究に資する。		
授業の概要	教育実践研究を推進していくために、研究プロジェクト推進機構を置き、個人研究と共同研究との有機的な結合によって大学の研究能力をより有効に発揮させ、その成果を教育に還元することを目的に開設している科目である。平成22年度は、11の研究プロジェクトの基本概念や研究手法を紹介・解説等すると共に、教員が提案するテーマについて討論等を行う。		
履修条件・注意事項(授業時間外の課題等)	初回にオリエンテーション・各研究プロジェクトのガイダンスを実施し、詳細を説明するので、必ず受講すること。(実施時期は、後日掲示する。)ガイダンス終了後、各研究プロジェクトの中からいずれか一つを選択し、受講する。		
授業計画・内容(授業回数毎)	<ul style="list-style-type: none"> ○各研究プロジェクトの研究代表者及びテーマ 久保田：遠隔授業の録画コンテンツを利用した現職教員への研修サービスの提供 古閑：言語活動を核として思考を促す国語科学習過程臨床研究 橋本：人間性形成と人間関係づくりに関する教育実践学の構築 藤井：小中学校における特別な教育的ニーズのある子どもの個別の指導計画作成に関する実践研究 石濱：僻地・複式教育(学級)の特性を活かした小規模公立小学校における外国語活動の指導の試みに関する実践的研究 藤田：教職大学院と学士課程教育を接続した6年一貫の教員養成カリキュラム開発 中村：上越教育大学の自然を生かした動植物教材の開発 西村：初等教育における造形表現力育成のための基礎研究 清水：授業力を高める効果的な研修方法に関する調査研究 附属中学校：各教科等における重点指導事項例とその学習指導に関する実践的研究 附属幼稚園：幼児の仲間とかかわる力をはぐくむ教育課程の改善・提案 		
試験			
成績評価の方法	15回分の授業を総合的に判定する。		
教科書・参考書	各研究プロジェクト毎に必要なに応じて指示する。		



所属	学位論文等題目	専門セミナー 担当教員	学位論文等 指導教員
学校臨床	二人称の知により協働生成されることばと経験世界に関する研究	松本 健義	布川 和彦
学校臨床	農業高校における職業教育の現状と課題 ～専門的職業人育成のための職業体験に着目して～	藤岡 達也	藤岡 達也
学校臨床	内モンゴルの伝統遊具「シャガー」を活用した学習	川村 知行	川村 知行
学校臨床	概念形成の多様性におけるメタ認知の役割 ～個人差に着目して～	増井 三夫	増井 三夫
学校臨床	「相馬野馬追」を活用した総合学習	川村 知行	川村 知行
学校臨床	小学校社会科第6学年における近代史学習に関する臨床的研究 ～児童の苦手意識に着目した単元開発の試み～	朝倉 啓爾	朝倉 啓爾
学校臨床	授業場面における自発的会話生起の局面とその過程 ～言語的課題調整の視点から～	増井 三夫	増井 三夫
学校臨床	生徒の表現力を高めるための学習プログラムの開発 ～映像メディアの視聴分析と制作・発信活動を通して～	南部 昌敏	南部 昌敏
学校臨床	読みの交流と深まり 子どもたちの読みを生かす国語科の授業づくり	古閑 晶子	朝倉 啓爾
学校臨床	越後妻有の「民家」を素材とした教材開発	川村 知行	川村 知行
学校臨床	自然環境学習への活用をめざした上越市版レッドデータブック対象植物の現状の検討	五百川 裕	川村 知行
学校臨床	中国ハルビンにおける教師のICT活用による授業の改善	井上 久祥	南部 昌敏
学校臨床	他者との対話としての学びの生成過程に関する研究	松本 健義	布川 和彦
学校臨床	多様化する後期中等教育におけるキャリア教育の課題と展	藤岡 達也	藤岡 達也
学校臨床	小学校「総合的な学習の時間」における観察を重視した評価について ～ゲストティーチャーとの活動場面を中心に～	藤岡 達也	藤岡 達也
学校臨床	インターネット上での誹謗中傷・名誉毀損事件判決文を活用した人権教育に関する基礎的研究	梅野 正信	梅野 正信
学校臨床	高等学校小説教材における読みの交流	古閑 晶子	朝倉 啓爾
学校臨床	物語文における登場人物に対するイメージのひろがり ～身体表現に着目して～	増井 三夫	増井 三夫
学校臨床	生徒が「引きつけられる」授業における教師の指導力 ～生徒の意識構造分析を通じて～	増井 三夫	増井 三夫
学校臨床	子どもがつまずく局面と克服するきっかけ ～授業中の子どもの思考に着目した事例研究～	増井 三夫	増井 三夫
学校臨床	中国・内モンゴルにおけるフデーでの体験活動を重視した環境教育	藤岡 達也	藤岡 達也
学校臨床	中国・内モンゴルにおける砂漠化問題の解決に関する環境教育の意義と課題	藤岡 達也	藤岡 達也
学校臨床	日本統治期台湾における学校教育の差別に関する考察	梅野 正信	梅野 正信
学校臨床	『山月記』演劇化をとおしたテキストとの協働的なかわりに に関する研究	松本 健義	布川 和彦
学校臨床	教師の子ども理解の変容過程に関する研究	越 良子	内藤 美加
学校臨床	嫌悪対象への態度の変容におよぼす勢力保持者からの情報の効果	中山 勘次郎	中山 勘次郎
学校臨床	教師の批判的思考に関する基礎的研究 ～デューイの反省的思考における「反省的」要素による検討	末松 裕基	林 泰成
学校臨床	中学校における教師の生徒認知の多様性が生徒のスクール・モラルに及ぼす影響 ～「教師用RCRT」を用いた教師へのフィードバックを通して	林 泰成	林 泰成
学校臨床	理科学習の仮説設定場面における独立変数抽出過程の分	中山 勘次郎	中山 勘次郎
学校臨床	中学生における友人関係の理想と現実のズレ ～公的自己意識、対人不安との関連～	越 良子	内藤 美加
学校臨床	中学校生徒指導における問題行動抑止に関する一考察	林 泰成	林 泰成
学校臨床	保護者対応に向けた学校問題解決支援チームの展開と課題	大前 敦巳	林 泰成

平成21年度 大学院学校教育研究科修了者の学位論文題目一覧

学校臨床	幼児における感情制御の理解とその発達 ー本当と見かけの感情区別ー	内藤 美加	内藤 美加
学校臨床	学級適応に影響を及ぼすイラショナル・ビリーフに関する事例研究 ーA中学校生徒のアンケート調査からの検討ー	稲垣 応顕	林 泰成
学校臨床	学級における集団規範と規範意識の関係についての研究	林 泰成	林 泰成
学校臨床	中学生の友人関係における怒りの表出とその抑制に関する研究	越 良子	中山 勘次郎
学校臨床	学校教育における<小さな死>に関する研究 ー「いのち教育」の批判的検討ー	安藤 知子	林 泰成
学校臨床	小学校におけるケアリング倫理を基底とした道德教育に関する研究 ーネル・ノディングズの「奨励」を中心にした試みー	林 泰成	林 泰成
学校臨床	小学校高学年におけるモラル・スキル・トレーニングプログラムの開発的研究 ー規範意識と道徳的行動傾向の育成を目指してー	林 泰成	林 泰成
学校臨床	中学生の情報モラル向上におけるアサーショントレーニングの効果 ～情報通信機器の利用を通じた人間関係に着目して～	大前 敦巳	林 泰成
学校臨床	中学生の「希望」獲得に関する実証的研究 ー京都教育大学附属京都中学校起業家教育の事例分析を通してー	末松 裕基	林 泰成
学校臨床	小学校担任教師における「子ども理解」の困難さに関する研究	安藤 知子	林 泰成
学校臨床	母親のスポーツ参加が養育態度に与える影響 ー仲間関係及び家族を通じたコミュニケーションに着目して	大前 敦巳	林 泰成
学校臨床	社会道徳的逸脱行為に関する小学生の規範意識 ー保護者と教師の価値観との比較ー	内藤 美加	内藤 美加
学校臨床	児童における気まずさ感情理解と2次の誤信念理解との関	内藤 美加	内藤 美加
学習臨床	理科支援員等配置事業に関する研究 ー学生支援員の現場適応に着目してー	久保田 善彦	西川 純
学習臨床	能登半島の地域素材を活用した体験活動について	藤岡 達也	藤岡 達也
学習臨床	地域の偉人に学ぶ生活科・総合的な学習の時間の展開に関する研究 ～T小学校の「善兵衛学習」におけるH学級の二年間の取組を中心に～	朝倉 啓爾	朝倉 啓爾
学習臨床	縄文を主題とした「総合的な学習の時間」における探究的な学習の展開	藤岡 達也	藤岡 達也
学習臨床	社会科における情報活用能力に着目した体験型学習システムの開発	井上 久祥	南部 昌敏
学習臨床	アサーション・トレーニングによる異文化コミュニケーション能力育成に関する研究	田島 弘司	梅野 正信
学習臨床	部活動が中学生の学校生活に与える影響 ーリーダーシップの有効性ー	角谷 詩織	梅野 正信
学習臨床	概念の再構成を支援するデジタル教材を活用した小学校算数科授業の開発と評価	井上 久祥	南部 昌敏
学習臨床	小学校理科教科書におけるキャラクターの研究	久保田 善彦	西川 純
学習臨床	「環境教育のフィールドとしての都市公園の利用の意義と活用」	藤岡 達也	藤岡 達也
学習臨床	対人コミュニケーションにおける児童の「聴く力」の育成に関する研究 ーロールプレイングを活用したプログラムの実践を通してー	田島 弘司	梅野 正信
学習臨床	教員養成系大学における「プログラミング入門」学習プログラムの開発	高野 浩志	南部 昌敏
学習臨床	子どもの問題解決過程における解法の多様性 ー振り返りカードに見られるモニタリングに着目してー	増井 三夫	増井 三夫
学習臨床	空間図形認識を高めるための複合現実感教材に関する研	南部 昌敏	南部 昌敏
学習臨床	地域自然環境の学習素材としての萩に関する基礎研究	五百川 裕	川村 知行
発達臨床	政治的リテラシーを育む教育に関する研究 ーイギリスのシティズンシップ教育の検討を通してー	林 泰成	林 泰成

平成21年度 大学院学校教育研究科修了者の学位論文題目一覧

発達臨床	学級における子どもの居場所づくりに関する研究 －教師の具体的働きかけと意識に着目して－	安藤 知子	林 泰成
発達臨床	教師の仕事特性と多忙感の関係についての研究 －仕事の複線性と不確実性がもつ多忙要因に着目して－	安藤 知子	林 泰成
発達臨床	小学校教師における「よい子」認識に関する研究 －早期発見と支援策のつながりに着目して－	大前 敦巳	林 泰成
発達臨床	話し合い活動における児童の発話を通じた行為調整 －小学校5年生クラスの観察を通じて－	大前 敦巳	林 泰成
発達臨床	リラクソスの情動伝染をもたらす非言語行動とその同調	中山 勘次郎	中山 勘次郎
発達臨床	教師が教授行為に活用する児童についての文脈的知識の	越 良子	内藤 美加
発達臨床	中学校における学級秩序の実態に関する質的研究 －生徒間の相互作用による位置取りに着目して－	安藤 知子	林 泰成
発達臨床	教師の自己開示は児童相互の自己開示を促進するか？	中山 勘次郎	中山 勘次郎
発達臨床	生徒参加によるシティズンシップの育成 －長野県辰野高等学校における生徒アンケートの分析を通して－	林 泰成	林 泰成
臨床心理	仲間媒介法を応用した自閉性障害のある幼児ときょうだいの 関係促進に関する研究	加藤 哲文	加藤 哲文
臨床心理	高校生におけるアイデンティティと学校生活適応・精神的健 康との関連	佐藤 淳一	内田 一成
臨床心理	フロー体験が怒りと不安に及ぼす影響	内田 一成	内田 一成
臨床心理	高校教師のバーンアウト傾向とコーピングとの関連	内田 一成	内田 一成
臨床心理	子どもの抑うつストレス媒介モデルと健康との関係	内田 一成	内田 一成
臨床心理	ふれあい恐怖傾向が大学適応感に与える影響	五十嵐 透子	五十嵐 透子
臨床心理	小学生における過剰適応と愛着との関連	佐藤 淳一	五十嵐 透子
臨床心理	自己概念との関連からみた青年期の自尊感情の変動性	宮下 敏恵	加藤 哲文
臨床心理	青年期における抑うつ傾向と時間的展望との関連 －3時制の関連性に着目して－	宮下 敏恵	内田 一成
臨床心理	問題行動の機能査定における行動のタイプと障害種の要因 に関する検討 －Motivation Assessment Scaleを用いて－	加藤 哲文	加藤 哲文
臨床心理	小学生が描く動的学校画の描画特徴に関する研究	宮下 敏恵	五十嵐 透子
臨床心理	スクールカウンセラーと教員の連携促進要因に関する研究	加藤 哲文	加藤 哲文
臨床心理	対人恐怖心性と攻撃性との関連 －P-Fスタディを用いた検討－	佐藤 淳一	加藤 哲文
臨床心理	怒りに対する潜在的態度と怒り表出傾向の関連	五十嵐 透子	五十嵐 透子
臨床心理	集団社会的スキル訓練の般化促進に及ぼす集団随伴性の	加藤 哲文	加藤 哲文
臨床心理	自己志向的完全主義の2側面と心理的適応との関連	宮下 敏恵	内田 一成
臨床心理	大学生における無気力傾向とその関連要因の検討	内田 一成	内田 一成
臨床心理	児童養護施設における被虐待児の心理的特徴 －バウムテストを用いて－	佐藤 淳一	加藤 哲文
臨床心理	大学生の自己愛傾向と対人ストレス・コーピングとの関連	五十嵐 透子	五十嵐 透子
臨床心理	楽観的帰属様式が健康に及ぼす影響	内田 一成	内田 一成
幼児教育	幼児の非言語コミュニケーション行動における性差について －タッチングと模倣の視点から－	鈴木 情一	鈴木 情一
幼児教育	幼稚園3歳クラス児の砂遊びの実態とその意義の検討	丸山 良平	丸山 良平
特別支援	知的障害児を対象とした持久走の指導に関する研究	齋藤 一雄	齋藤 一雄
特別支援	中学校における発達障害を考慮した生徒指導の内容と方法 に関する研究	大庭 重治	大庭 重治
特別支援	肢体不自由特別支援学校教師の同僚からのソーシャル・サ ポートに関する研究	藤井 和子	我妻 敏博
特別支援	小・中学校における障害児のきょうだい支援に関する研究	笠原 芳隆	大庭 重治
特別支援	難聴通級指導教室に通う聴覚障害児における聴能・発音指 導についての研究 ～保護者との協力による指導について～	我妻 敏博	我妻 敏博
特別支援	聾学校高等部における重複障害生徒の就労支援の現状に 関する調査研究	我妻 敏博	我妻 敏博

平成21年度 大学院学校教育研究科修了者の学位論文題目一覧

特別支援	特別なニーズのある幼児への支援に関する研究 ーセンター的機能における特別支援教育コーディネーターの役割の観点からー	藤井 和子	我妻 敏博
特別支援	病弱特別支援学校における個別の教育支援計画に対する教師の認識とその関連要因	笠原 芳隆	土谷 良巳
特別支援	特別な支援を必要とする児童の小集団における学習活動を促すための交流感充足手立てに関する実践的研究	大庭 重治	大庭 重治
特別支援	自閉症児の課題学習における教示要求行動の形成手続きー機能的コミュニケーション訓練を通してー	村中 智彦	我妻 敏博
特別支援	特別支援学校(知的障害)における行動問題についての教師の対処行動評価	齋藤 一雄	齋藤 一雄
特別支援	特別支援教育における小・中学校と児童相談所の連携に関する調査研究 ー発達障害が関連する児童生徒の支援を中心にー	河合 康	大庭 重治
特別支援	学習困難を示す中学生の学習参加を高める「朝教室」の設	村中 智彦	土谷 良巳
特別支援	知的障害特別支援学校における個別の教育支援計画の作成・活用に関する調査研究	河合 康	我妻 敏博
特別支援	聾学校児童における説明的文章の読解指導に関する事例的研究	我妻 敏博	我妻 敏博
特別支援	1・2歳児の気になる子への保育士の対応に関する調査研究	河合 康	大庭 重治
特別支援	中学校特別支援学級におけるキャリア教育の現状と課題	藤井 和子	土谷 良巳
特別支援	知的障害特別支援学校高等部におけるアフターケアに関する研究	笠原 芳隆	齋藤 一雄
特別支援	特別支援教育における小学校校長のリーダーシップと学校	河合 康	齋藤 一雄
特別支援	特別な支援を必要とする幼児に対する幼稚園・保育園から小学校への引き継ぎの実態に関する調査研究	河合 康	土谷 良巳
特別支援	小学校の通常の学級における発達障害に関する理解を促すための教師の取組	大庭 重治	大庭 重治
幼児専攻	保育所給食の今日的意義と課題	杉浦 英樹	丸山 良平
幼児専攻	幼稚園における幼児のリテラシー活動の実態 ー文字環境から見る幼児の読み書きー	鈴木 情一	鈴木 情一
幼児専攻	子どもの生活習慣に関する保護者の意識 ー幼少年期の子どもを持つ保護者に対する調査を中心にー	木村 吉彦	鈴木 情一
特別支援専攻	肢体不自由特別支援学校における進路指導・支援について	笠原 芳隆	土谷 良巳
特別支援専攻	自閉症児の家庭場面における日課行動の形成 ー支援ツールの活用によるシミュレーション指導を通じてー	村中 智彦	大庭 重治
特別支援専攻	聴覚障害幼児における絵本の挿絵の理解に関する研究	我妻 敏博	我妻 敏博
特別支援専攻	特別支援学校教師の朝の会における意思決定に関する研	藤井 和子	齋藤 一雄
特別支援専攻	知的障害特別支援学校の寄宿舎における生活指導に関する調査研究	河合 康	大庭 重治
特別支援専攻	特別支援教育コーディネーターに対する学級担任の意識に関する調査研究	河合 康	齋藤 一雄
特別支援専攻	特別支援学校の自立活動における教師と外部専門家の連携について	笠原 芳隆	土谷 良巳
障害専攻	姿勢や動作に困難のある生徒の立位姿勢の改善をめざした事例的研究	齋藤 一雄	齋藤 一雄
障害専攻	聴覚障害児にITPAを適用する際の手話を含めた伝達手段に関する研究	我妻 敏博	我妻 敏博
国語	小学校高学年における「読むこと」の指導の工夫 ー自己の読みを他者と説明し合うことの学習効果ー	迎 勝彦	有澤 俊太郎
国語	『源氏物語』紫の上論	下西 善三郎	下西 善三郎
国語	『夫木和歌抄』から見る月の研究	下西 善三郎	下西 善三郎
国語	村上春樹『海辺のカフカ』論	小埜 裕二	小埜 裕二
英語	The Red PonyにおけるJodyの成長	前川 利広	前川 利広
英語	The Acquisition of English Past Tense by Japanese Junior High School Students	大場 浩正	平野 絹枝
英語	認知・機能文法の観点を取り入れた中学英語指導の考察 ー場面を意識した文法指導による学習プログラムの開発ー	加藤 雅啓	加藤 雅啓
英語	小学校外国語(英語)活動を経験した小・中学生の意識調査	北條 礼子	北條 礼子

平成21年度 大学院学校教育研究科修了者の学位論文題目一覧

英語	数量詞someを含む文における尺度含意の計算： 日本人英語学習者文法での統語論と語用論の相互作用	野地 美幸	加藤 雅啓
英語	The Effects of Cooperative Learning on the Development of Question Formation Among Adult Japanese Learners of English	大場 浩正	平野 絹枝
英語	The Effects of Test Method and Question Type on the English Listening Comprehension and Listening Strategies of Japanese University Students	平野 絹枝	平野 絹枝
英語	小学校外国語(英語)活動における学級集団ソーシャルスキ ル訓練(CSST)を取り入れた学習プログラムの開発研究 ー児童の人間関係力と社会性を高める試みー	北條 礼子	北條 礼子
英語	小学校外国語活動における文字を取り入れた語彙学習の効 果に関する研究	北條 礼子	北條 礼子
英語	Japanese Learners' Acquisition of Inversion in English <u>Wh</u> - Questions	野地 美幸	加藤 雅啓
英語	小学校外国語活動におけるCreative Dramaticsを利用したド ラマ的活動の効果に関する研究	北條 礼子	北條 礼子
英語	小学校外国語活動が児童のアサーションスキルに与える影 響	石濱 博之	北條 礼子
英語	An Aspect of Raymond Carver's Poems	前川 利広	前川 利広
英語	Mark Twain's Voice through Huckleberry Finn	前川 利広	前川 利広
英語	小学校外国語活動における「英語ノート」に基づいたCRIプ ログラムの開発研究 ー電子情報ボードを活用してー	北條 礼子	北條 礼子
英語	A New Approach to the Study of Infinitive and Gerund Complements: From the Perspectives of Function and Cognition	加藤 雅啓	加藤 雅啓
英語	小学校外国語活動における文字指導の有効性に関する研 究	北條 礼子	北條 礼子
社会	家庭系一般廃棄物の有料化に関する一考察 ー上越市を例にー	佐藤 芳徳	佐藤 芳徳
社会	北海道畑作経営の特徴と展開過程 ー網走市・北見市を中心としてー	山縣 耕太郎	赤羽 孝之
社会	高度経済成長期における集団就職の実証研究 ー上越地方と桜新町商店会の事例を中心としてー	小島 伸之	松田 慎也
社会	プラトン初期対話篇『エウチュプロン』の研究 ー「敬虔」を探求するソクラテスの考察ー	下里 俊行	下里 俊行
社会	新潟・長野県境付近における偽高山帯の成立過程	山縣 耕太郎	佐藤 芳徳
社会	新潟県内における板碑に関する一考察 ー村松・五泉地域を中心にしてー	浅倉 有子	浅倉 有子
社会	近世魚沼地域の「越後縮」を活用した中学校社会科歴史授 業の開発	茨木 智志	山本 友和
社会	戦後日本の制度改革と地方自治 ー国の地方出先機関を中心としてー	小島 伸之	赤羽 孝之
社会	幕末の加賀藩における町人の情報収集に関する一考察 ー青木家文書の分析を中心としてー	浅倉 有子	浅倉 有子
社会	社会科における多文化教育の教材開発に関する基礎的研 究	山本 友和	山本 友和
社会	コンビニエンスストアの経営戦略に関する調査・研究	佐藤 芳徳	佐藤 芳徳
社会	清掃教育を通じた規範意識の形成について	松田 慎也	松田 慎也
社会	通勤流動からみる小田急小田原沿線市町の変容	赤羽 孝之	赤羽 孝之
社会	自治体景観行政における景観法の活用に関する一考察	佐藤 芳徳	佐藤 芳徳
社会	警廃事件の史的分析 ー祝祭・暴動・異議申立てー	浅倉 有子	浅倉 有子
数学	射影平面幾何学の研究 ーパスカルの定理とブリアンションの定理を中心としてー	溝上 武實	溝上 武實
数学	関数学習における子どもの知識の形成過程についての研究 ーモデルの発達の様相についての考察ー	高橋 等	森 博

平成21年度 大学院学校教育研究科修了者の学位論文題目一覧

数学	割合単元における子どもの知識の形成過程について －固執modelの発達と役割－	高橋 等	中川 仁
数学	Cohn-VossenとMinkowskiの定理について	森 博	森 博
数学	2階線形微分方程式の非振動解の性質	溝上 武實	溝上 武實
理科	北八ヶ岳蓼科山の形成史及び岩石化学的研究	大場 孝信	天野 和孝
理科	ヒガンバナ科ヒメノカリス属植物の花粉に関する細胞学的研	小川 茂	中村 雅彦
理科	音エネルギーに対する生徒の理解を深める中学校理科学 習における授業実践研究	高津戸 秀	高津戸 秀
理科	力学的エネルギーと仕事に関する定量的実験教材の開発と 中学校での実践	定本 嘉郎	高津戸 秀
理科	社会教育施設で行われる自然体験プログラムの評価	中村 雅彦	中村 雅彦
理科	月の形と見え方の学習における指導法改善に関する実践研 究	小林 辰至	小林 辰至
理科	中学校における電流・電圧に関する教材研究	定本 嘉郎	高津戸 秀
理科	発芽種子内における生化学的変化の教材化に関する実践 的研究 －グルコース濃度及びアミラーゼ活性の観点から－	小林 辰至	小林 辰至
理科	電流の誤概念解消教材の開発と小学校における実践	定本 嘉郎	高津戸 秀
理科	中学校理科における仮説検証実験の学習支援に関する研 究 －生徒の因果関係把握に関する実態と観察・実験の特性の	小林 辰至	小林 辰至
音楽	岡野貞一について ～校歌を中心に～	後藤 丹	後藤 丹
音楽	小学校における音楽授業の改善を目指して ～授業導入時における効果的な音楽遊びの工夫～	峯岸 創	峯岸 創
音楽	我が国や郷土の伝統音楽の教材化に関する研究 ～義務教育における指導のために～	後藤 丹	後藤 丹
音楽	主体的な鑑賞の能力を育てる指導の工夫 －批評力を高める音楽鑑賞授業の提案－	峯岸 創	峯岸 創
音楽	生涯を通して音楽とかかわる子どもたちを育てる学校音楽教 育の在り方	峯岸 創	峯岸 創
音楽	小学校音楽科へのポピュラー音楽導入についての一考察	上野 正人	池田 操
音楽	「シューベルト 歌曲集 Winterreise Op.89『冬の旅』の研究」	上野 正人	池田 操
音楽	自尊感情を高め合う 小学校における音楽科教育の工夫 ～児童の自己肯定感を高めるくかかわり>を視点にして～	峯岸 創	峯岸 創
音楽	天野正道吹奏楽作品の研究 －吹奏楽作品におけるオーケストレーションを中心に－	後藤 丹	後藤 丹
音楽	日本語の歌詞のアクセントと旋律との関係に関する研究 －明治・大正期を中心に－	後藤 丹	後藤 丹
音楽	ヴェルディ作曲 歌劇「椿姫」の研究 －ヴィオレッタは何故身をひいたのか－	池田 操	池田 操
音楽	キリスト教保育を参考とした歌唱指導に関する一考察 －歌詞のもつ魅力を味わわせるために－	時得 紀子	峯岸 創
音楽	音楽科における小・中学校連携に関する一考察	時得 紀子	峯岸 創
音楽	ベートーヴェンのピアノ作品における演奏法の一考察 －後期のピアノソナタ作品に焦点をあてて－	平野 俊介	平野 俊介
美術	版画に関する蔵書票についての一考察	福岡 奉彦	福岡 奉彦
美術	図画工作科における学習活動としての「鑑賞」 －学校と美術館との連携を考える－	西村 俊夫	西村 俊夫
美術	「装飾」の効果についての考察 －高等学校におけるデザイン教育の観点から－	安部 泰	阿部 靖子
美術	台湾における膠彩画について －林之助の活動を通して－	洞谷 亜里佐	福岡 奉彦
美術	造形活動とアフォーダンス －陶芸で生じた出来事を手掛りに－	高石 次郎	高石 次郎
美術	構成的ポスターのグラフィックエレメント分析とポスター制作	西村 俊夫	西村 俊夫
美術	小林古徑における写真の精神について －写生から制作へ－	洞谷 亜里佐	福岡 奉彦
美術	<関係>をつむぐ造形活動	高石 次郎	高石 次郎

平成21年度 大学院学校教育研究科修了者の学位論文題目一覧

美術	ザンビアのアートクラスにおける美術教育の意義	阿部 靖子	阿部 靖子
美術	造形活動における<学び>の根拠とその生成過程	高石 次郎	高石 次郎
美術	「鑑賞すること」と「表現すること」の連続する関わりについて ー鑑賞を切り口に表現を捉えるー	安部 泰	西村 俊夫
保健体育	ボールジャグリングが児童の目と手の協応性に及ぼす効果	伊藤 政展	伊藤 政展
保健体育	柔道学習における「体さばきシート」の活用と背負い投げの上達過程に関する実践的研究	直原 幹	直原 幹
保健体育	体育授業の活性化に関する研究	加藤 泰樹	加藤 泰樹
保健体育	中学校の体づくり運動における長なわとび運動が生徒の集団凝集性と運動有能感に及ぼす影響	伊藤 政展	伊藤 政展
保健体育	体育授業における道徳的効果に関する実践的研究 ー身体運動に伴う自己経験に着目してー	加藤 泰樹	加藤 泰樹
保健体育	鉄棒運動における「踏み切り逆上がり」に関する研究 ～補助用具と練習方法の開発～	周東 和好	加藤 泰樹
保健体育	中学校における保健学習の充実に関する検討 ～アクション・リサーチ的手法を用いた試み～	下村 義夫	下村 義夫
保健体育	バドミントンにおけるフォアハンドストロークの指導法に関する研究 ～運動ファミリーと運動類縁性の考え方に基づいて～	周東 和好	加藤 泰樹
保健体育	運動技能の観察学習におけるモデルの一人称的映像とメンタルプラクティスの効果	伊藤 政展	伊藤 政展
保健体育	ハンドボールにおける防御の連係時の発声に関する研究	土田 了輔	伊藤 政展
保健体育	サッカーにおける1stタッチについての研究	榊原 潔	市川 真澄
保健体育	小学校の陸上運動における「タイムリミットリレー走」が児童の運動有能感に及ぼす効果	伊藤 政展	伊藤 政展
保健体育	勝敗に対する態度についての現象学的検討 ー小学校課外体育における競争の場面を中心にー	加藤 泰樹	加藤 泰樹
保健体育	児童のハードル走の学習におけるモデル映像とKP映像の二重呈示の効果	伊藤 政展	伊藤 政展
保健体育	運動学習の変動性練習におけるランダム及びブロック練習の効果	伊藤 政展	伊藤 政展
保健体育	サッカーにおけるボールリフティングの効果的な指導方法	榊原 潔	下村 義夫
技術	中国天津市小中学校の技術教育に関する調査研究 ー労働技術教育センターを中心にー	黎 子椰	黎 子椰
技術	「創成力」と「科学技術の智」を育成する大教科群に関する研究 ー「ものづくり学習領域」教師用ガイダンス資料の開発とワー	山崎 貞登	山崎 貞登
技術	科学技術学習を取り入れた森林体験プログラム「森小屋づくり体験活動」に関する研究	東原 貴志	山崎 貞登
技術	「創成力」と「科学技術の智」を育成する大教科群に関する研究	山崎 貞登	山崎 貞登
技術	「創成力」と「科学技術の智」を育成する大教科群に関する研究	山崎 貞登	山崎 貞登
技術	マイクロコントローラを用いたものづくり啓発のための教材開発	川崎 直哉	川崎 直哉
技術	ちゃぶ台を題材とした技術科教育における問題解決的な学習について	東原 貴志	黎 子椰
技術	小・中学校のための授業支援システムの検討と開発	大森 康正	川崎 直哉
家庭	中学校家庭科における実験実習教材の内容検討	光永 伸一郎	光永 伸一郎
家庭	女性教員の仕事と家庭の両立 ～両立葛藤と対処行動の具体～	佐藤 ゆかり	細江 容子
家庭	世代間交流における諸相 ～交流プログラムの開発・実践、交流とストレスとの関係～	得丸 定子	得丸 定子
家庭	環境教育及び環境汚染対策の取り組みに関する研究 ー日中の比較に基づく中国における環境教育への提言ー	佐藤 悦子	佐藤 悦子
ヘルスケア	自尊感情とレジリエンスが摂食障害の疾病抵抗性に及ぼす	増井 晃	増井 晃
ヘルスケア	養護教諭と学校医の連携に関する調査研究	上野 光博	上野 光博
ヘルスケア	養護教諭のライフストーリー ～専門性の追究のために～	下村 義夫	下村 義夫
ヘルスケア	養護教諭の実践における「省察」と「熟考」	下村 義夫	下村 義夫

平成21年度 大学院学校教育研究科修了者の学位論文題目一覧

ヘルスケア	小学校の保健学習におけるチーム・ティーチングによる授業モデルの開発	下村 義夫	下村 義夫
-------	-----------------------------------	-------	-------

【別添資料5-6-1】

平成21年度ティーチング・アシスタント実施状況

修士課程学生

授業科目名	担当教員	学期	曜日 時限	任用時間数
体験学習A	伊佐 他	前期	集中	30 時間
体験学習B	五百川	通年	集中	27 時間
体験学習C	榊原	通年	不定期	60 時間
体験学習D	高石	通年	不定期	30 時間
体験学習E	立屋敷 他	通年	不定期	30 時間
体験学習F	大場孝 他	通年	不定期	23 時間
体験学習G	平野俊 他	前期	水・午後	30 時間
体験学習H	東原 他	通年	不定期	30 時間
体験学習J	安部泰	通年	不定期	30 時間
スポーツ実践A・B	清水, 土田, 榊原	前期	水 2	30 時間
スポーツ実践C・D	清水, 土田, 榊原	前期	火 2	30 時間
ウォータースポーツ	清水, 加藤泰 周東	前期	集中	30 時間
マリンスポーツ	清水, 加藤泰 周東	前期	集中	30 時間
中国語・中国事情	黎	前期	月 3	30 時間
教育情報応用演習	井上	前期	月 4	30 時間
教育情報応用演習	大森	前期	金 4	30 時間
教育情報応用演習	高野	前期	水 2	30 時間
教育情報応用演習	石川	前期	火 1	30 時間
表現・相互行為教育演習	加藤泰, 松本健 阿部亮	前期	火 1. 2	30 時間
表現・〈子ども〉の活動A・B	西村, 洞谷, 大橋 阿部靖, 松尾	前期	金 1. 2	30 時間
表現・〈子ども〉の活動C・D	西村, 洞谷, 大橋, 阿部靖, 松尾	前期	金 1. 2	30 時間
音楽	阿部亮, 池田, 後藤 時得, 平野俊, 上野正 長谷川	通年	木 3. 4	30 時間
図画工作A	洞谷, 西村 高石, 松尾, 安部	前期	金 3	30 時間
図画工作B	洞谷, 西村 高石, 松尾, 安部	前期	木 1	30 時間
図画工作C	洞谷, 西村 高石, 松尾, 安部	前期	火 3	30 時間
図画工作D	洞谷, 西村 高石, 松尾, 安部	前期	木 4	30 時間
算数科指導法AB	高橋等, 伊達	前期	木 2	15 時間
算数科指導法CD	高橋等, 伊達	前期	火 2	15 時間
初等音楽科指導法AB	時得, 後藤, 池田 上野正, 長谷川	前期	月 2	30 時間
初等音楽科指導法CD	時得, 後藤, 池田 上野正, 長谷川	前期	木 2	30 時間
初等体育科指導法AB	加藤泰, 下村義 周東	前期	月 1	30 時間
初等体育科指導法CD	加藤泰, 下村義 周東	前期	水 1	30 時間

授業科目名	担当教員	学期	曜日 時限	任用時間数
食生活論	立屋敷	前期	木 1	30 時間
造形基礎A C	福岡, 安部	前期	月 5	30 時間
指揮法	後藤, 長谷川	前期	木 5	30 時間
書写書道 II	押木	前期	月 3	30 時間
心理学実験	中山, 内藤, 越 奥村	前期	木 3. 4	30 時間
コンピュータ・プログラミング入門 A	高野	前期	木 3	30 時間
地学実験	大場孝, 天野 濤崎	前期	月 4. 5	30 時間
造形基礎BD	西村, 高石 松尾	前期	月 4	30 時間
電気工学実験実習	川崎	前期	木 4	30 時間
食科学実験B	立屋敷	前期	月 4. 5	30 時間
工芸表現B	高石	前期	木 5	30 時間
スノースポーツ	市川, 加藤, 下村義, 直原, 榊原, 清水, 大橋, 周東, 増井晃, 上野光	後期	集中	30 時間
保育・表現の指導法	阿部靖 香曾我部	後期	金 2	30 時間
教育情報基礎演習	井上	後期	月 4	30 時間
教育情報基礎演習	大森	後期	金 3	18 時間
教育情報基礎演習	高野	後期	金 4	30 時間
教育情報基礎演習	石川	後期	木 2	30 時間
表現・状況的教育方法演習	高石, 西村, 大場孝, 田島, 安部泰	後期	月 5	30 時間
冬季野外運動 (スキー)	市川	後期	集中	30 時間
木材機械加工法	東原	後期	月 4	30 時間
調理の理論と実習	立屋敷	後期	火 3. 4. 5	30 時間
機械工学実習	黎	後期	木 4	30 時間
生物学実験	小川, 谷	後期	木 4. 5	30 時間
計算機数学演習	中川	後期	木 4	30 時間
カウンセリング基礎演習	高橋靖	後期	水 2	30 時間
コンピュータ・プログラミング入門B	高野	後期	月 3	30 時間
書写書道 I	押木	後期	月 2	30 時間
数学基礎演習	溝上	後期	火 4	30 時間
伝統絵画表現と鑑賞	福岡, 洞谷	後期	火 5	30 時間
物理学実験	定本	後期	月 3. 4	30 時間
日本画表現	洞谷, 福岡	後期	火 4	10 時間

◎ 本学では、下記のとおり学位論文等発表会を公開で開催します。参観においでください。

平成21年度 上越教育大学 大学院学位論文等発表会 開催情報

平成22年1月25日現在

課程	専攻	コース	科目群	開催日	開催時間	会場	問い合わせ先		
修士課程	学校教育	学校臨床研究	学習臨床研究	平成22年 2月8日(月)	9:00~17:00	本学人文棟104~107教室	布川研究室 025-521-3450 nunokawa@juen.ac.jp		
			生徒指導総合	平成22年 1月29日(金) 2月1日(月)	13:00~17:30 13:00~17:00	本学人文棟8階 802 生徒指導演習室(予定)	内藤研究室 025-521-3370 mikan@juen.ac.jp		
			学校心理	平成22年 1月26日(火)	13:00~16:30	本学人文棟8階 802 生徒指導演習室(予定)	内藤研究室 025-521-3370 mikan@juen.ac.jp		
		臨床心理学		平成22年 2月18日(木)	10:00~16:30	本学人文低層棟113教室	宮下研究室 025-521-3363 miyasita@juen.ac.jp		
		幼児教育		平成22年 2月8日(月)	15:00~16:30	本学人文棟205教室	鈴木研究室 025-521-3353 suzusei@juen.ac.jp		
		特別支援教育		平成22年 2月1日(月)	8:50~17:55	本学特別支援教育実践研究センター研修室	葉石研究室 025-521-3386 haiishi@juen.ac.jp		
	教科・領域教育	言語系	国語 ※		平成22年 2月20日(土)	13:00~14:00	本学講義棟201教室	小埜研究室 025-521-3316 yuji@juen.ac.jp	
			英語		平成22年 2月10日(水)	9:00~16:00	本学講義棟302教室	北條研究室 025-521-3301 reiko@juen.ac.jp	
		社会系			平成22年 2月6日(土)	9:30~15:00	本学講義棟302教室	浅倉研究室 025-521-3334 asakura@juen.ac.jp	
		自然系	数学		平成22年 2月9日(火)	9:00~12:00	本学第2講義棟103教室	中川研究室 025-521-3457 jin@juen.ac.jp	
			理科		平成22年 2月6日(土)	9:00~17:00	本学第2講義棟202教室	天野研究室 025-521-3443 amano@juen.ac.jp	
		芸術系	音楽	卒業・修了演奏会		平成22年 2月7日(日)	14:00~17:00 ^{予定}	本学講堂	平野研究室 025-521-3501 hirano@juen.ac.jp
				修士論文発表会		平成22年 2月22日(月)	13:00~18:00	本学音楽棟101教室	
			美術	卒業・修了制作作品展		平成22年 2月17日(水)~ 2月21日(日)	開館時間 10:00~18:00※ 最終日は、15:00	上越市立高田図書館(上越市本城町8-30)	高石研究室 025-521-3537 takaishi@juen.ac.jp
			修士論文発表会		平成22年 2月17日(水)	9:00~12:00	本学美術棟4階 美術演習室		
		生活・健康系	保健体育			平成22年 2月4日(木)	9:00~16:00	本学人文低層棟113教室	市川研究室 025-521-3573 ichikawa@juen.ac.jp
			技術 ※			平成22年 2月3日(水) 2月6日(土)	13:00~15:00 15:30~16:30	本学人文低層棟2階 教育情報訓練室2 ポスターセッション発表会 高陽荘(上越市西城町3-6-22)	黎研究室 025-521-3403 liziye@juen.ac.jp
			家庭 ※			平成22年 2月15日(月) 2月6日(土)	15:30~17:30 15:30~16:30	本学講義棟302教室 ポスターセッション発表会 高陽荘(上越市西城町3-6-22)	細江研究室 025-521-3420 hosoe@juen.ac.jp
			学校ヘルスケア			平成22年 2月8日(月)	17:00~19:00	本学人文低層棟113教室	下村研究室 025-521-3576 yshimo@juen.ac.jp
		専門職学位課程	教育実践高度化	教育実践リーダー		学修成果発表会		平成22年 1月22日(金)	10:00~16:30
学校運営リーダー		学校支援プロジェクトセミナー ※			平成22年 2月11日(木)	10:00~16:30	本学学校教育実践研究センター (上越市西城町1-7-2)		

※ 言語系コース(国語)は、「上越教育大学国語教育学会(11:00~15:00)」の中で開催。

※ ポスターセッション発表会は、生活・健康系コースの技術と家庭の合同開催。

※ 教育実践高度化専攻の「学校支援プロジェクトセミナー」は、同プロジェクトの成果について各チームから発表し、学校関係者等に広く紹介するものである。